

創建五百年



法光山 妙勝寺

目 次

ごあいさつ	第三十二世 顕徳院日慈 松田 龍 顕	1
1. 荘 厳		
(1) 本 堂		2
(2) 妙見堂（番神堂）		5
2. 歴 史		
【創建時代・中世から近世へ】		8
【妙勝寺が創建されたころの宍粟・山崎】		9
【妙勝寺再建】		11
【近 代】明治・大正・昭和（前期）		13
【現 代】昭和（後期）・平成・令和		20
3. 歴代住職		28
4. 施 設		
●境内、本堂		30
●妙見堂、山門、鐘楼堂		32
●客殿（旧庫裏）、奥座敷		33
●永代供養納骨堂「日光殿」		34
●飛び地境内		36
●宝塔類		37
5. 供養・法要・祈願祈禱		
●彼岸法要		38
●お盆施餓鬼法要		38
●お会式		39
●星祭り		41
●供養・祈願		42
6. 妙勝寺年表		43
7. 妙勝寺上空「空中散歩」		46
あとがき	妙勝寺 護持会長 前 野 良 造	48



妙勝寺境内パノラマ写真

ごあいさつ

妙勝寺 第三十二世 顕徳院 日慈

松田 龍顕



法光山妙勝寺創建五百年を迎えて

檀信徒の皆様におかれましては、益々ご隆昌のこととお慶び申し上げます。

また日頃よりご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、法光山妙勝寺はまもなく創建五百年を迎えます。

この五百年という長い歴史の中には、幾多の困難もあった事と思います。

しかしながら、歴代住職とその当時の檀信徒の皆様が異体同心となり、深い信仰心をもって法華経とお題目の教えを信じ妙勝寺を護ってこられました。

宍粟山崎の地にて現在の妙勝寺の姿があるのは、歴代住職と檀信徒の皆様のご先祖様のお力に他なりません。この大きな節目を迎えられますことに心より感謝いたしております。

現在の妙勝寺では、大切に護ってこられた教えと想いを次の時代へと繋げていく為、創建五百年の節目に皆様のご協力のもと寺観を整えてまいりました。これからも妙勝寺が檀信徒の皆様と共に更に護持発展し、明るく心やすらげる場所となれる事を願っております。

最後になりますが、本誌を作成いただきました当山護持会長の前野良造氏に心より御礼申し上げます。

令和6年10月20日

1. 荘 厳

(1) 本 堂

●ご本尊

十界の大曼荼羅、^{いっとうりょうそんしし}「一塔両尊四士」をご本尊とする。



ご 本 尊

「一塔両尊四士」は、日蓮聖人が説示された法華経世界（大曼荼羅本尊）に基づく日蓮門下独特の奉安形式で、蓮華座中央にお題目を大書した長八角形の宝塔を建て、その左に釈迦牟尼仏、右に多宝如来を一基の須弥壇に奉安し、その下段には四大菩薩（右側に上行菩薩・無辺行菩薩、左に浄行菩薩・安立行菩薩）を奉安するものである。上図のように「一塔両尊四士」の前に日蓮大聖人座像を奉安するのが一般的である。

尚、上図に見られるように当山のご本尊は「一塔両尊四士二菩薩四天王」、すなわち「一塔両尊四士」の左右に「二菩薩」（文殊菩薩・普賢菩薩）が配置、さらに「四天王」（持国天・増長天・広目天・多聞天）が配置されている。

●脇壇（右）（本堂）

「^{きしもじん}鬼子母神」を奉安する。



鬼子母神



大黒天（上）と
加藤清正公（下）

「鬼子母神」の謂れ：その昔、鬼子母神はインドで訶梨帝母^{かりしも}とよばれ、王舎城の夜叉神の娘で、嫁して多くの子供を産みました。しかしその性質は暴虐この上なく、近隣の幼児をとって食べるので、人々から恐れ憎まれました。

お釈迦様は、その過ちから訶梨帝母を救うことを考えられ、その末の子を隠してしまいました。その時の訶梨帝母の嘆き悲しむ様は限りなく、お釈迦様は、

「千人のうちの一子を失うもかくの如し。いわんや人の一子を食らうとき、その父母の嘆きやいかん」と戒めました。

そこで訶梨帝母ははじめて今までの過ちを悟り、お釈迦様に帰依し、その後安産・子育ての神となることを誓い、人々に尊崇されるようになったとされています。

当山の鬼子母神像は、鬼形ではなく、羽衣・櫻洛をつけ、吉祥果を持ち幼児を抱いた菩薩形の美しいお姿をされている。

法華信仰に生きる者、日蓮宗に属する者にとって、鬼子母神はただ単に子供を守る神であるばかりでなく、信者・宗徒の守護神として崇められている。

鬼子母神の右に「大黒天」、左に「加藤清正公」が奉安されている。

●脇壇（左）（本堂）

「一塔両尊」及びその前に坐する「日蓮大菩薩」を奉安する。



●位牌堂（本堂）

（旧）法蓮寺に奉安されていたご本尊「一塔両尊」と「日蓮大菩薩」を移設奉安する。



妙勝寺本堂（位牌堂）に
移設奉安された（旧）法蓮寺ご本尊

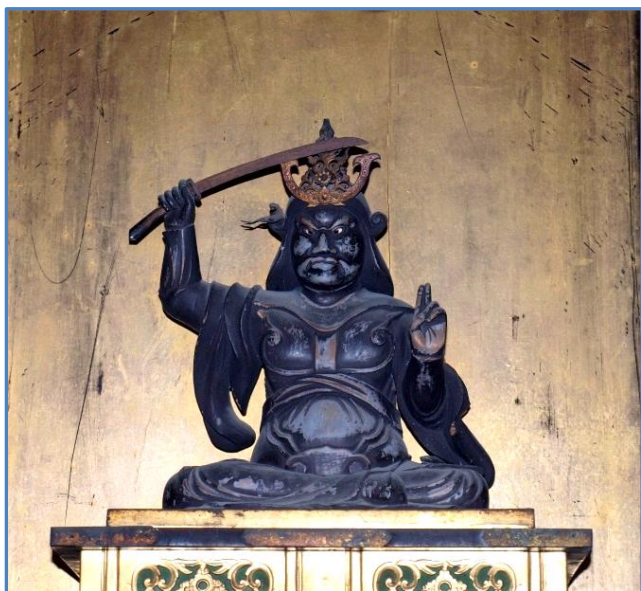
(2) 妙見堂（番神堂）



中央祭壇に北辰妙見大菩薩、
脇壇（右）に三十番神、脇壇（左）に七面大明神を奉安する

ほくしんみょうけんたいぼさつ

●北辰妙見大菩薩（中央祭壇）



甲冑を纏い、刀を掲げた勇ましいお姿をされている。

妙見菩薩は『北辰』の名の通り、北極星を司る菩薩とされる。古来より人々は「運命は星の巡りに左右される」と考え、特に、巡る星々の中心に在り続け不動の存在である北極星は「星々の王」とであるとされてきた。

星々の動きを司る妙見菩薩は「開運ご利益」があるとされ、また「武力」を司る北斗七星を従えていると考えられた事から神

として「法華経を信じる人を守護する」守護神としても信仰されるようになった。その為、魔や厄を払う力強いお姿をされている。

妙勝寺では新年の節に妙見さまにご祈願し、新年の開運をご祈願している。

平成2年（1990）、篠の丸城址にあった飛び地境内「奥の院」が無住となり老朽化が激しくなったため庫裏を解体、翌年にはお堂も解体され、祀られていた妙見大菩薩をこの妙見堂に合祀した。

さんじゅうばんしん
●三十番神（右脇壇）

三十番神は、毎日交替で国家や国民などを守護するとされた三十柱の神々のことで、太陰太陽暦では月の日数は29日か30日であることから三十番神とされた。

特に日蓮宗・法華宗（法華神道）で重視され、法華経守護の神（諸天善神）とされた。



三十番神

しちめんだいみょうじん
●七面大明神（左脇壇）

七面大明神は、七面天女とも呼ばれ日蓮宗において法華経を守護するとされる女神。

七面天女は当初、日蓮宗総本山である身延山久遠寺の守護神として信仰され、日蓮宗が広まるにつれ、法華経を守護する神として各地の日蓮宗寺院で祀られるようになった。

その本地は、山梨県南巨摩郡早川町にある標高1982mの七面山山頂にある寺（敬慎院）に祀られている神で、吉祥天とも弁財天ともいわれる。

像の背面に「第十一世日應上人（1728-1740）」の名前が記されていることから、番神堂が建立（1717-1722）されて間もなく奉安されたものと思われる。

また令和6年（2024）奉安されてから約三百年が経ち痛みの激しい「七面大明神」を修復することとした。



七面大明神

2. 歴 史

【創建時代・中世から近世へ】

●妙勝寺（前期）の時代

享禄元年（1528）、京都・大本山・本圀寺の第14世蓮光院日助上人のお弟子で常在院日住上人が法華經の教えを伝える為に、山陽・山陰の要路である因幡街道の中心である山崎に脚を止め、広瀬郷山田村（現在の東鹿沢）の地に当山を建立された。

時あたかも戦国末期足利幕府の権威も地に堕ち群雄は割拠し、各地には一揆が頻発した時代であり、世に有名なポルトガル船の漂着の15年前、天下統一の覇者織田信長誕生の6年前のことである。

享禄元年より延宝8年（1680）の152年間当山の位置は現在の東鹿沢、神姫バス山崎案内所南、天理教山崎分教会辺りにあり、その地に妙勝寺、妙勝寺藪と云う名称も史料に残っている。



延宝6年（1678）の山崎藩の絵図
現在の東鹿沢の地に
「妙勝寺」（東西29間、南北44間）
と記されている
（岡山大学附属図書館提供）



天保時代（1830～1843）の山崎藩の絵図
東鹿沢の地の「妙勝寺藪」と記されている
（宍粟市教育委員会提供）

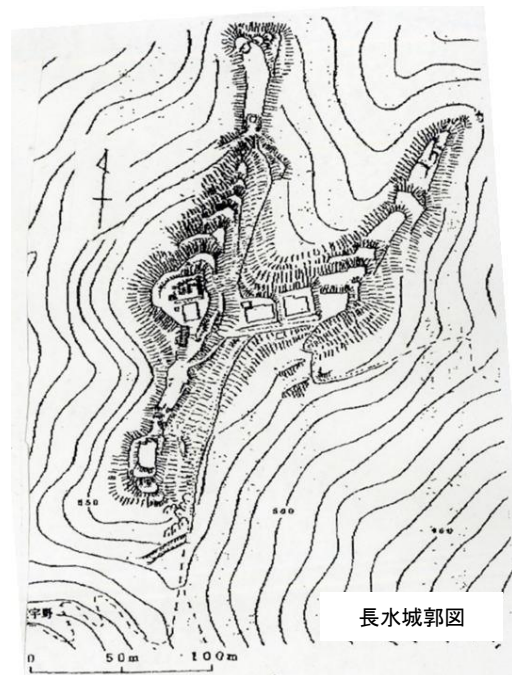
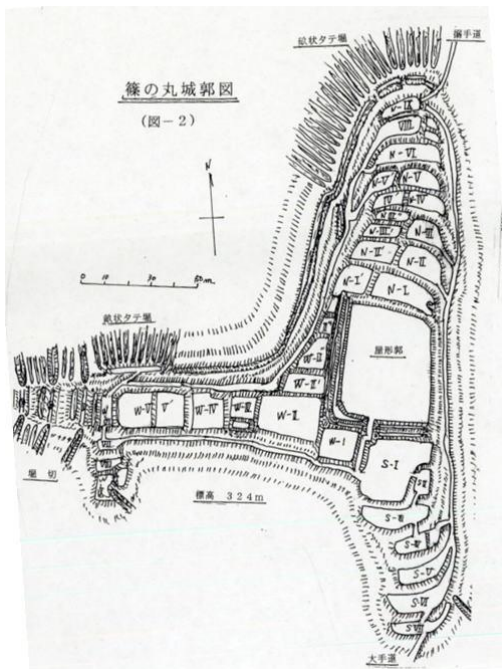
その後、延宝8年12月16日（第五世本珠院日栄上人代）の大火により類焼の憂目に遭遇。

【妙勝寺が創建されたころの宍粟・山崎】

妙勝寺が創建されたころ、宍粟山崎はどのような時代であったのか。

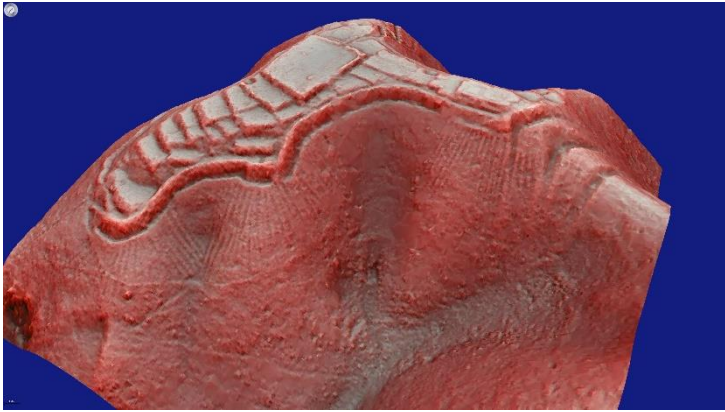
京都で勃発した「応仁の乱」(1467)は次第に地方へと波及し、「嘉吉の乱」で没落しかけた播磨守護赤松氏は回復を図るため播磨周辺で山名氏との闘争を繰り返していた。このころ赤松氏配下の武将で「宇野越前守則高」がおり、戦国期宍粟郡を治めた宇野氏初代となる。宇野氏はその後播磨一宮伊和神社の運営に関与するなど在地社会への影響力を深化させ宍粟郡周辺へと支配を広げ、西播磨では龍野赤松氏と並ぶ地域勢力へと成長を遂げた。

しかし、戦国末期に至り東から織田信長、西から毛利輝元の勢力が播磨に及ぶと、宇野氏は両者の間で翻弄される。天正6年(1578)上月城の戦い以降、毛利方についていた宇野氏は天正8年(1580)、織田方の播磨攻め総司令官、羽柴秀吉の攻撃を受けることになる。5月9日、10日と宇野氏の本城「^{ちようずいじよう}長水城」と支城「^{ささ まるじよう}篠の丸城」(「長水城」は詰めの城、「篠の丸城」が政庁的本城という説もある)を攻め落とされ宇野氏一族は滅亡、宍粟の中世は終わりを告げることとなる。



篠の丸城城郭図と長水城城郭図 (北播磨城郭研究会 提供)

宇野氏滅亡の後、天正12年(1584)黒田官兵衛孝高が秀吉から「宍粟郡一職」^{いつしき}を与えられ、その後官兵衛は福岡52万石へ飛躍したことから宍粟は「官兵衛、飛躍の地」と呼ばれるようになった。「黒田家譜」に記され、また官兵衛の次男熊之助が生まれた「宍粟郡山崎の城」は「篠の丸城」と考えられている。



篠ノ丸城址三次元図
(宍粟市教育委員会提供)



篠ノ丸城址赤面立体図
(宍粟市教育委員会提供)



篠の丸城址の麓、最上山公園に建てられた
「官兵衛飛躍の地」と「熊之助ゆかりの地」の碑

「篠の丸城址」のある「**篠の丸**（通称『一本松』）」は昭和の時代に入り、妙勝寺の飛び地境内「奥の院」となる。

天正 15 年（1587）、官兵衛が豊前国に転じた後、宍粟は龍野城主、木下勝俊の支配下となる。勝俊は宍粟郡の中心として山崎の地に新しい町場を建設することを目指し「新町申付書」を下し、税の優遇措置を講じて商工業者などへの山崎移住を促した。慶長 5 年（1600）、関ヶ原の戦いで戦功のあった池田輝政が播磨 52 万石の領主となり宍粟郡も輝政の領有するところとなった。輝政は山田山崎町に市を立てる日を設定するなど経済活動の振興を図った。

慶長 18 年（1613）、輝政が病に倒れると、輝政の四男輝澄が宍粟 3 万 8 千石を領有し宍粟藩が立藩する。

宍粟藩を立てるにあたっては、木下勝俊の新町建設、池田輝政による経済振興策によって

町場として発展を遂げつつあった山崎の地（今の鹿沢）に居城を構え城下町の基礎を築き始めた。寛永 8 年（1631）には佐用郡 2 万 5 千石が加増され、宍粟藩は一気に 6 万 3 千石までになる。ただ、寛永 17 年（1640）輝澄が病で江戸住いのころ国元で家臣の内紛等がおこり、輝澄は領地没収となる。

その後、宍粟（山崎）藩は、寛永 17 年（1640）松井（松平）康映、慶安 2 年（1649）から池田恒元・政周・恒行と藩主が変わり、延宝 7 年（1679）、本多忠英が 1 万石で入封して、以降明治維新まで本多氏の支配が続くことになる。

創建時の鹿沢の地の妙勝寺が大火で焼失したのは本多氏が入封した翌年のことである。



鹿沢城跡「紙屋門」

「大河ドラマ『軍師官兵衛』飛躍の地歴史ガイド」・「宍粟立藩四百年歴史解説パンフレット」

（宍粟市教育委員会社会教育文化財課発行）参考

創建時の妙勝寺は、奇しくも近世山崎城（鹿沢城）の正面、山田山崎町の中心に位置する場所にあり、前述延宝 6 年の絵図で見る限りその敷地も千坪を超える広さだったと思われる。戦国後期から江戸前期の宍粟の激動の中心地でその動きを目のあたりにする場所にあり、火災により殆ど焼失されているため当時の妙勝寺の様子を知る手立てはないが、妙勝寺及び所縁ある人々が新しい山崎の誕生とその後の安定的発展に寄与したことが推察される。

【妙勝寺再建】

災害にも屈せず翌年延宝 9 年（天和元年：1681）5 月、現在（山崎町上寺）の地を寺領として賜わり移転再建されている。

また第五世本珠院日栄上人は元禄 8 年（1695）、蔦沢の地（宍粟市山崎町片山）に隠居寺として**法蓮寺**を建立、蔦沢地区での布教にも力を注がれた。法蓮寺は昭和 6 年（1931）兵庫県社町に寺号を移転、平成 22 年（2010）、お堂を解体し飛び地境内となった。

第七世恕長院日周上人代（1703-1709）には本堂の改造工事がなされ、第九世湛浄院日浩

上人代（1717-1722）には**鐘樓堂**及び**番神堂**の建立がなされた。

番神堂（妙見堂）：徳川末期山崎藩も他藩と同様に藩財政は窮乏の極に達していた。このため藩財政窮乏を乗り切るため御用金の調達がなされたが、思うにまかさず藩主も頭を痛められていた。時の家老でもあり、平素より当山妙見信仰の深かった武間氏は番神堂の妙見大菩薩にこの苦境を切り抜けられるよう祈念したところ、金策の都合もよくなり無事目的が達せられた。藩主もその後、信仰厚く「妙法者即是心也」の扁額を当山に送り現存する。その頃より妙見堂と称するに至る。

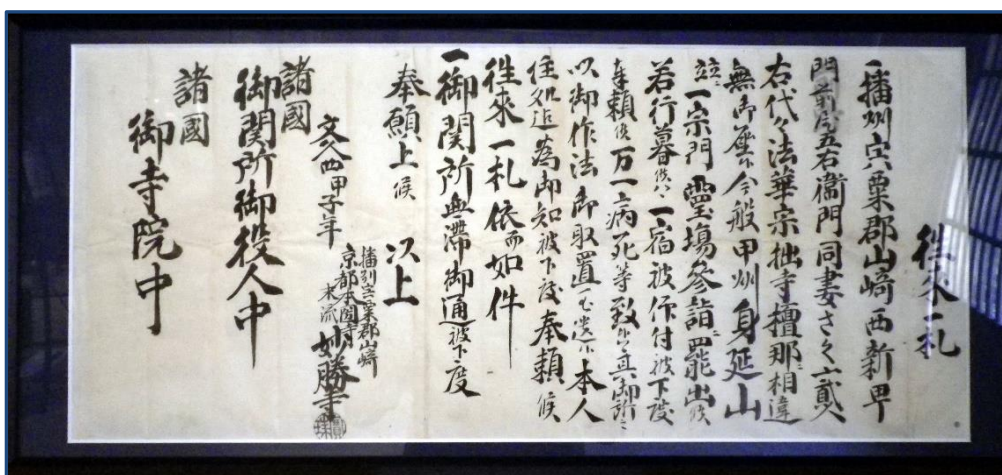
第十世恵運院日厳上人代（1722-1728）には四菩薩尊像を造祀、半鐘、番神前殿も完成され寺運の隆盛を見る。

第十四世大玄院日孝上人代（1756-1760）には庫裡を新築し、その後各歴代上人により堂宇の増改築が随時行なわれた。

●檀家制度

江戸時代は役所の代わりをお寺が行っていた。檀家制度という名の下に江戸幕府は隠れキリシタン対策の為に、お寺の下に檀家を統率させ、檀家を記録することで戸籍の基になった宗門人別改帳の住民調査の一端を担っていた。

お伊勢さん参り・身延山参りなど有名寺社参拝の際にも、旅に出る時は国(藩)の外に出る際に通行手形(身元証明書=パスポート)が必要であったが、その書類の発行は武士以外はお寺がその役割を担っていた。



往来一札

この書状は文久四年（1864）、中門前屋2代目五右衛門と妻さくが身延山参詣の旅に出る際に檀那寺妙勝寺が発行したもので、いわゆる「通行手形」、身元証明書にあたる。

（中門前屋所蔵）

あらゆる面でお寺が地域・檀家の中心として位置していた時代である。

【近 代】明治・大正・昭和（前期）

第二十六世要妙院日解上人の発願により明治41年（1908）5月20日（第二十七世円妙院日観上人代）に現在の本堂が竣工。

第二十八世慈妙院日孝上人代に計画された現在の庫裡が昭和5年（1930）（第二十九世智恬院日照上人代）に完成し今日に至る。

明治になって妙勝寺は励妙院日慈上人（第二十五世）の時、お寺の格は最高位の緋金禪（緋に 金糸の刺繍の入る袈裟）の着用が許される。

第二十六世要妙院日解上人の代に、新たに本堂を造る計画がなされた。1681年に再建された本堂を遙かに上回る七間四面の大きさを計画された（以前の本堂は現本堂前の石畳の所にあった）。境内を広く取り本堂への参道を長くする為に本堂の位置を後方に引き下げた。材は総檜の二層屋根の計画であった。

●「夜泣靈碑」 よなきれいひ

本堂建設の話を聞きつけた山崎城下の住民から、お城の石橋の石材を本堂の礎石に利用してもらえないかと申し出があった。ただ、この石材にはある因縁があった。

「本堂建て替えに際し、城下より運び込まれた石は城の石橋だったのです。この石橋にはいわく因縁がありました。江戸時代に赤穂から嫁入り前の行儀見習いに山崎に預けられていた美しい女性がいました。その女性に思いをよせた藩重役の息子がこの石橋の上で思いを打ち明けたのです。しかし、女性には赤穂に好きな人がいた為思いが叶わなかったのです。重役の息子はその場所で女性を切りつけ、娘は赤穂の若者の名を呼びながら亡くなったのです。このあと娘の思いがこの橋に残ったのか『赤穂へ帰りたい』と切々たる声が聞こえるようになったといひます。藩も重役の息子の仕業とわかりながら如何ともしがたく、不浄の石として城下の者に下げ渡され、新しい橋がつけられたのです。

その石材が行くところに不幸が続き、『赤穂へ帰りたい』という声は止まず、夜泣き石と呼ばれていた石だったのです。



そして、妙勝寺境内に運ばれたのですが、その年の彼岸法要中に大工小屋から不審火が発生、本堂用材が燃えてしまうという事件が起こりました。」

時の要妙院日解上人は石材の一部を境内に安置し『夜泣霊碑』として懇ろに供養し、改めて多年にわたり用材集めが始まる。

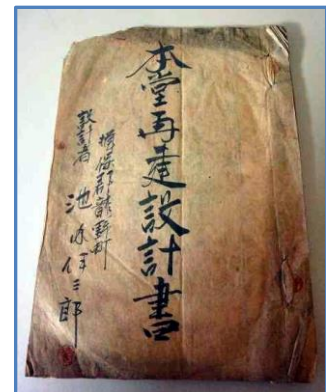
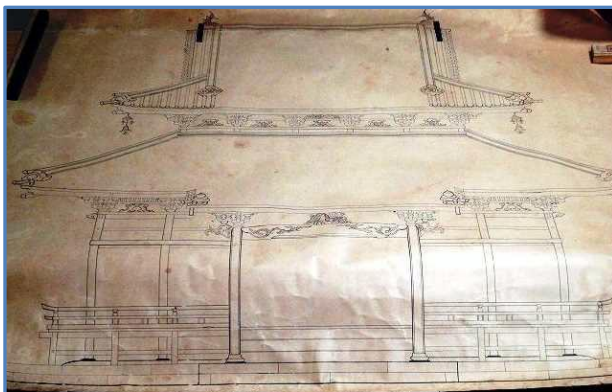
●本堂落成

明治 33 年（1900）ようやく用材が再調達でき、再建工事にかかる。明治 37 年（1904）日露戦争勃発により、一年間工事を中断することもあり、檀信徒の願いと住職の托鉢などにより、なんとか成し遂げることができた。

明治 39 年（1906）、本堂前石積み石段を積んだ記録によると、夜泣き石の残りの石橋が反りを取り石段として利用されたとのこと。また当初計画では二層屋根の本堂が現本堂の通り一層屋根となった。工事は明治 41 年（1910）2 月 10 日に落成。工事開始から完成まで 23 年の長きにわたることとなった。



元石橋の石を使用した石段



当初計画された 2 層屋根の本堂の図面と「本堂再建計画書」（明治 33 年）

明治 41 年（1910）、本堂開堂式の日を迎える。開堂供養会は明治 41 年 5 月 20 日より 23 日迄、4 日間行われた。

当時の記録を記すと「5 月 20 日ヨリ 23 日 4 日間上棟並開堂供養会並先師 17 回忌ヲ執行ス時ノ講中並檀方総係リニテ当寺空前絶後ノ盛典ナリキ

天童音楽大法会大導師ニ八本山(本圀寺)現薫法主旭日苗貌下(本圀寺第 48 世)説教師尾張黒田町法蓮寺安田貞教師他二法縁寺院等二十余ヶ寺参拝者無慮 2 万人」とある。

本堂の再建を始められた要妙院日解上人(塚田恵温上人:明治 23 年 2 月 1 日遷化)の第 17 回忌法要が執り行われ、引き続いて稚児行列、音楽を奏で法要が行われた。導師には大本山・本圀寺・旭日苗貌下をお招きし、妙勝寺と同じ始祖(久遠成院日親上人)の教えを受け継ぐ 20 余ヶ寺の法縁寺院が参列し賑々しく行われた様子がうかがえる。この 4 日間に妙勝寺の本堂を見学・お参りされた方は、おおまかに 2 万人だったという。

当時は、城下町の北東端にあたり、門前には建物無く、本堂の雄姿が遠くからも見渡せたようである。

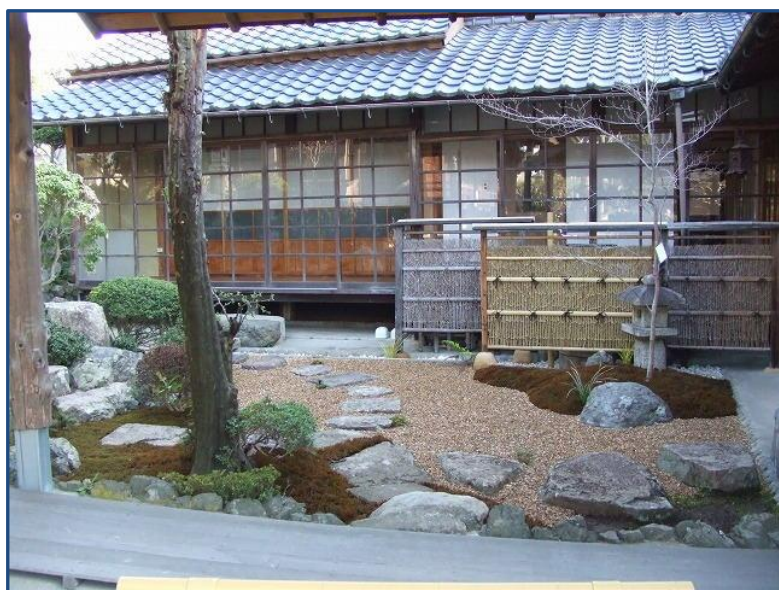


本堂完成後の境内の様子（本堂から）
境内には大きな黒松が生え、正面向こうに山門、その左に鐘楼堂、写真左には旧庫裏の大玄関が見える。

この写真は子供さんの葬儀の様子らしく先生に引率されて多くの子供達が参列している様子が見える。

●明治 20 年（1887）^{ずいりゅうじ}瑞龍寺第 10 世村雲日栄大法尼ご宿泊

村雲日栄法尼が播磨を回られた時に宿泊の為、奥座敷が建てられた。



奥 座 敷

瑞龍寺（滋賀県近江八幡市）は日蓮宗唯一の門跡寺院であり、皇族・公家が住職を務める特定の寺院、その中でも皇女や貴族の息女が住職となる寺院を尼門跡といい、瑞龍寺はこれに当たる。豊臣秀吉の姉・智は豊臣家が滅ぼされて行く中で生き残り、一族の菩提を弔う為に出家。以前から帰依していた日蓮宗寺院を嵯峨の村雲に開いことにより「^{むらくもごしよ}村雲御所」とも称される。

大正 6 年（1917）には境内の整備が行われ、石畳もこの時に敷かれた。本堂の再建をなされた円妙院日観上人（太田のち塚田恵静上人）は以前より目が悪くなられており、失明されながらも、最後まで妙勝寺の寺観を整え、大正 8 年 3 月 12 日遷化された。

翌大正 9 年（1920）^{しづき}志津木上人が第 28 代住職に就任。大正 14 年（1925）、庫裏の改修 5 年計画がはじまる。

昭和 4 年（1929）9 月山崎町高下・法傳寺の住職を務めていた大岩日照上人が第 29 世として晋山。庫裏建設の計画が引き継がれ昭和 5 年（1930）に唐破風の大玄関を有する庫裏（現客殿）が完成した。



●飛び地境内 旧「奥^{おく}の院^{いん}」

「奥の院」は当寺裏山（通称「一本松」：324m）の山頂で、中世の山城跡「篠ノ丸城址」がある。この地は、眼下に揖保川沿いの街道筋と宍粟南部一帯が一望できる軍事・政治の要衝の地であったことから、南北朝期に赤松円心の子・赤松顕則によって築かれたと伝えられ、室町期以降は西播磨守護代宇野氏の拠点（広瀬城）となっていた。

天正8年（1580）の秀吉による播磨平定後は、約7年間、黒田官兵衛の居城「山崎の城」（『黒田家譜』に見える）であったと考えられている。

●篠ノ丸城址（通称「一本松」）の寄進

昭和12年（1937）、山崎出身木村説二氏の喜捨により「篠の丸公園」が整備されるにあたり、山頂にあたる「一本松」も当時私有地であったものを買収し公園の一部とした。ただ、貴重な史跡であり山頂という環境条件から見て信仰の道場として信仰の力によって維持管理するのが適当であろうと判断され、公園整備の世話をされていた当山総代の前野佐吉氏の計らいにより妙勝寺に寄進された。第29世智恬院日照上人と相談の上、能勢妙見様の御分身を勧請し妙見様をお祀りすることになった。尚、建物は木村氏の菩提寺である興国寺（当山北隣）の御堂・前堂を譲り受け、町内有志の喜捨も受け移築された。木村説二氏揮毫の「篠ノ丸城址」、前野佐吉氏揮毫の「篠ノ丸公園」の石碑も完成。



「篠の丸開運殿」の落成は昭和12年（1937）5月23日に行われた。



当初、興国寺から譲り受けた建物は老朽化がひどくなり、昭和 27 年（1952）に建て替えられた。



かやのみやつねのり
●昭和 11 年（1936）皇族賀陽宮恒憲親王ご宿泊

篠の丸公園工事が進む中、昭和 11 年（1936）6 月 9 日妙勝寺に宮様、賀陽宮恒憲親王が泊まりました。賀陽宮恒憲親王は明治 33 年（1900）京都にて誕生。昭和 6 年（1931）にア



メリカ他欧州、エジプトを訪問。昭和 9 年（1934）にはアメリカ・ニューヨーク、ヤンキー・スタジアムで試合を観戦し、野球の虜となり「野球の宮様」とも称され、国際親善に努められた。

妙勝寺宿泊の記念写真

太平洋戦争開戦については反対論を唱えており、開戦時には、家族たちに敗戦の可能性を説き、その際は、皇族をやめることになるう・・・と語られたという。何故反戦を唱えられたかという、アメリカ訪問における国力の差を痛感したことによるらしい。陸軍士官学校、陸軍大学校を卒業。妙勝寺に泊まれた時は陸軍中佐・騎兵第10連隊長（姫路・野里の部隊）。終戦時は陸軍中将。敗戦の責任を取って皇籍離脱することを主張。昭和22年（1947）GHQの指令により10月14日皇籍離脱。自ら区役所に赴いて皇籍離脱の手続きを済ませられたという。



賀陽宮恒憲親王

昭和12年(1937)に入ると7月盧溝橋事件。11月、日独伊三国協定成立。12月、南京占領と日中戦争へ突き進んで行った。檀信徒の若者が次々と出兵。そして不運にも昭和13年4月24日機関銃隊に属されていた一宮町・閏賀の平田治三郎氏が津浦戦線にて戦死。信徒中、日中戦争での最初の不幸であった。（日清戦争での檀信徒戦死者はなし。日露戦争では明治37年前野太藏氏、遼陽にて戦死）

檀信徒の中で四十六名の方が太平洋戦争にてお亡くなりになる。

●一本松に三大誓願石塔建立

終戦を迎えた2年後の昭和22年（1947）2月、篠の丸開運殿をお守り頂いていた前田りつ様の発願で「再建日本の一助に」と宝塔建設の悲願が起き、多くの檀信徒の賛同を得て、昭和22年5月に建立された。（揮毫：京都大本山・妙顕寺第58世山田日真上人）

●寒修行

第29世智恬院日照上人の頃、寒修行（本堂前での集合写真）。山崎の中心街を団扇太鼓をたたきながら修行。昭和の懐かしい風景であった。



【現 代】昭和（後期）・平成・令和

●鐘楼堂（梵鐘）建立：昭和 55 年（1980）

享保年代（1716-1736）に建築された旧鐘楼堂は昭和 19 年（1944）、鐘を第 2 次世界大戦のため供出し、堂も取り壊された。

現在の鐘楼堂は昭和 55 年（1980）、（東京在住）日野隆司・昌子様の寄進により鐘とともに再建された。



●本堂・妙見堂 屋根替え：昭和 61 年（1986）

昭和 61 年（1986）、第三十世一妙院日祥上人の代に本堂及び妙見堂の屋根吹替えが行われた。



妙勝寺本堂並びに諸堂等屋根葺替落慶大法要 昭和61年11月23日

●平成の改修事業発願

平成16年（2004）、第三十一世三千院日清上人への法灯継承に伴い、「平成改修事業」を発願。

事業内容は

・ 本堂内陣荘厳改修 ・ 客殿改修 ・ 新庫裏建設 ・ 境内整備

客殿改修については新たに庫裏を建設し、客殿と庫裏を分離、会議室設置、厨房改修等を行った。

平成19年（2007）、計画されたすべての改修事業を終えて落慶法要が行われた。



平成の改修事業 落慶法要の様子



法光山 妙勝寺 落慶法要 2007年4月29日

●妙勝寺 寺小屋「花まつり」

平成16年（2004）に檀家有志の「南無の会」主催による、お釈迦様の誕生をお祝いする「花まつり」開催を始める。檀家や近隣の子供達と、大歳神社の「千年藤」が見頃を迎える5月連休頃に本堂で「花御堂（^{はなみどう}誕生仏を安置する花で飾った小さい堂）」を飾り甘茶をかけてお祝いする。マジックショー、人形劇、アニメ映画や金魚すくいなど子供たちが楽しめる催しを開催。

少子化により、平成31年（2019）、15回目をもって終了した。



花御堂



花まつり：
マジックショーや人形劇、金魚すくいなど



●除夜の鐘

毎年大晦日には、鐘楼堂と鐘を一般に開放し「除夜の鐘」を突いていただいている。町内近隣の寺院も同様で、ご祈祷や催しなどそれぞれ工夫を凝らして新年を迎える。また、山崎八幡神社ではカウントダウンイベントなども行われており、合わせて山崎の年末の風物詩となっている。



●近年の団体参拝

H 1 4 年（2002） 4 月 5 日～ 7 日

身延山久遠寺参拝と白骨温泉・飛騨高山の旅

H 1 5 年（2003） 5 月 2 4 日～ 2 7 日

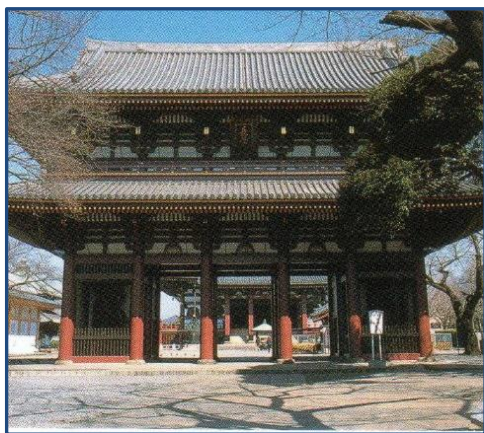
佐渡霊跡参拝と立山アルペンルートの旅



佐渡霊跡参拝



H 1 8 (2006) 1 0 月 1 1 日～1 3 日
池上本門寺・千葉霊跡寺院を巡る旅



池上本門寺



千葉清澄寺

H 2 4 年 (2012) 3 月 3 1 日～4 月 2 日
身延山参拝と江の島・鎌倉の旅

H 2 6 年 (2014) 4 月 5 日～4 月 7 日
身延山参拝と東伊豆の旅



身延山・東伊豆団参

●永代供養納骨堂『日光殿』の建設

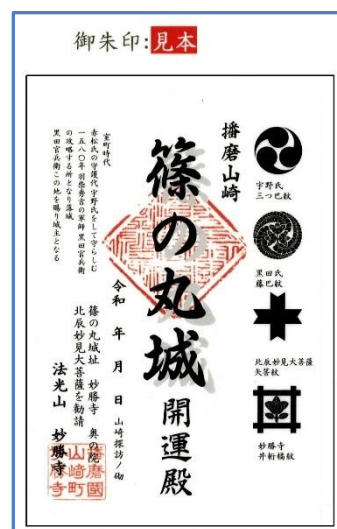
平成27年（2015）、少子高齢化により今後お墓を維持することが困難な時代になりつつあることを考慮し、無理なく先祖や縁者の供養をすることができる永代供養のあり方として、「永代供養納骨堂『日光殿』」を企画、本堂北隣に建設。当山檀家に限らず希望により他宗派の方でも納骨できるようにした。



永代供養納骨堂『日光殿』 内部

●「篠の丸城開運殿」の御城印を作成

令和3年（2021）、兵庫県西播磨県民局の「西播磨の山城復活プロジェクト」企画に協賛して、「篠の丸城址」を飛び地境内として所管する妙勝寺が「篠の丸城開運殿」の御城印を用意、希望者に授与を始める。



篠の丸城 御城印

●お会式餅柱の新設

「お会式^{えしき}」における「餅柱」設置は全国的にも貴重になった妙勝寺伝統の主要な行事であり、今後も継承していくことが望まれる。ただ、準備にあたる檀家世話人・婦人部にとって高齢化が進む中で「餅柱」制作・設置は大きな負担と危険を伴う作業となっていた。

令和5年（2023）、「餅柱」餅部分模型を発泡スチロール成型物で新に制作、外見上従来と寸分変わらない新「餅柱」が完成し、檀家の作業負担が大きく減少した。尚、三色の「お会式餅」は別途準備し祭壇にお供えしている。



新しくなった「お会式」餅柱

●妙勝寺創建五百年事業

令和元年（2019）、「妙勝寺創建五百年・日蓮聖人御降誕八百年」記念事業を発願。

事業として、

- ・ 本堂冷暖房設備
- ・ 客殿、境内トイレ改修
- ・ 妙見堂、日光殿周辺改修整備
- ・ 記念誌「妙勝寺五百年の歩み」編纂、等を企画、発願。

令和元年（2019）、近年の夏季高温化や檀信徒の負担軽減に備えて本堂に冷暖房設備を設置した。その他、客殿屋根修理、本堂と客殿樋修理を実施。



境内トイレ新設



古いトイレを撤去し、すっきりとした鐘楼堂周り

令和2年（2020）、境内の旧トイレを撤去し新トイレ（男女別）を新設。客殿のトイレを改修（男女別に）。

令和4年（2022）、境内庭整備（バラス敷）に。

令和5年（2023）、本堂石段手すりと下足箱を設置。また、「日光殿」渡り屋根を設置した。



本堂石段手すり・下足箱



バラス敷ですっきりとした境内

令和6年（2024）、妙見堂改修、冷暖房設備導入。妙見堂に幕も新設された。（幕の左側には能勢家の家紋である矢筈十文字紋、右側には篠の丸城の最後の城主、黒田家の家紋である藤巴が記されている。頁5参照）

また、奉安されてから約三百年が経ち痛みの激しい「七面大明神」を修復することとした。

●妙勝寺創建五百年記念式典

令和5年（2023）3月31日、

第32世顕徳院日慈（松田龍頭）上人晋山



松田龍頭上人と世話人との
初めての顔合わせ（令和4年6月）

令和6年（2024）10月20日、法灯継承式並びに創建五百年記念式典を催行。

3. 歴代住職

代	号	晋 山	転出・遷化	備 考
1 世	常在院日住上人	享禄元年（1528）開山	弘治元年遷化	
2 世	一乗院日祐上人	弘治元年（1555）	文禄 4 年遷化	
3 世	本成院日寿上人	文禄 4 年（1595）	寛永 15 年遷化	
4 世	円珠院日調上人	寛永 15 年（1638）	元禄 7 年遷化	
5 世	本珠院日栄上人	寛文 12 年（1672）	正徳 3 年遷化	妙勝寺を現在地に移す （蔦沢）法蓮寺開山
6 世	恵林院日還上人	元禄 8 年（1695）	元禄 15 年遷化	
7 世	恕長院日周上人	元禄 16 年（1703）	宝永 6 年隠居 遷化年不明	
8 世	松寿院日達上人	宝永 6 年（1709）	享保 2 年隠居 遷化年不明	
9 世	湛浄院日浩上人	享保 2 年（1717）	享保 7 年隠居	
1 0 世	恵運院日厳上人	享保 7 年（1722）	享保 13 年遷化”	寺運興隆中興上人
1 1 世	守玄院日応上人	享保 13 年（1728）	元文 4 年遷化	
1 2 世	観行院日透上人	元文元年（1740）	宝歴 3 年隠居 宝暦 6 年遷化	播磨平福了清寺第 3 世
1 3 世	唯常院日賢上人	宝歴 3 年（1753）	宝歴 6 年転出 遷化年不明	
1 4 世	大玄院日考上人	宝歴 6 年（1756）	宝歴 10 年転出 明和 7 年遷化”	岐阜県揖斐川町覚林寺 第 16 世
1 5 世	長久院日能上人	宝歴 10 年（1760）	天明 9 年遷化	播磨中寺醍醐寺歴代、 摂津伊丹本泉寺第 17 世
1 6 世	本領院日栄上人	（不明）	（不明）	
1 7 世	止静院日慈上人	（不明）	寛政元年遷化	
1 8 世	行善院日静上人	寛政元年（1789）	寛政 7 年遷化	
1 9 世	観明院日靚上人	寛政 7 年（1795）	弘化 3 年遷化	島根県今市町遠藤氏出身
2 0 世	恵妙院日秀上人	文化 13 年（1816）	文政元年遷化	

代	号	晋 山	転出・遷化	備 考
2 1 世	寿量院日文上人 字弁龍	文政元年（1818）	文政 13 転出 安政 3 年遷化	播磨福崎妙法寺歴代 京都光悦寺歴代
2 2 世	沾妙院日道上人 字恵沾 権律師	文政 13 年（1830）	文政 13 年転出 安政 3 年遷化	播磨福崎妙法寺歴代 京都光悦寺歴代
2 3 世	温讓院日慈上人 字普耀 号日諦	天保 6 年（1835）	明治 5 年遷化	肥後正立寺、本妙寺、妙永寺、 蓮政寺、丹波妙福等、 加賀立像寺、京都本瑞寺、 豊後法心寺、各寺之歴代也
2 4 世	文暁院日慎上人 字恵長	弘化 3 年（1846）	嘉永 5 年転出 遷化不明	播磨竹万大乘寺歴代 肥後蓮政寺第 17 世
2 5 世	励妙院日慈上人 姓河井恵忍 権大講義	嘉永 5 年（1852）	明治 16 年遷化	本圀寺執事、 緋金網許下の始祖 播磨赤穂高光寺、摂津本伝寺 歴代、大阪教導取締等歴任
2 6 世	要妙院日解上人 姓塚田恵温	（不明）	明治 23 年遷化	本堂一期起工、 火災により中断、 当山緋金席寺とす。当山中興
2 7 世	円妙院日觀上人 姓塚田恵静	明治 25 年（1892）	大正 8 年遷化	本堂起工継承（二期）、 明治 41 年落成、当山中興
2 8 世	慈妙院日孝上人 姓志津木貫誠	大正 8 年（1919）	昭和 3 年転出 昭和 54 年遷化	摂津妙寿寺歴代
2 9 世	智恬院日照上人 姓大岩文雄	昭和 4 年（1929）	昭和 47 年隠居 昭和 50 年遷化	播磨上郡大乘寺、 播磨高下法伝寺歴代
3 0 世	一妙院日祥上人 姓大岩祥峰	昭和 47 年（1972）	平成 16 年隠居、 平成 22 年遷化	
3 1 世	三千院日清上人 姓大岩清人	平成 16 年（2004）	令和 5 年隠居	現院首
3 2 世	顕徳院日慈上人 姓松田龍顕	令和 5 年（2023）		

4. 施 設

●境内、本堂

【境 内】

〒671-2571 兵庫県宍粟市山崎町上寺168番地 980坪



【本 堂】

88坪 木造瓦葺平屋総檼入母屋造

明治18年(1885)着工するも火災により中断し、明治33年(1900)再着工し明治41年(1908)5月20日落成する。

昭和61年(1986)、80年の風雪に傷んだ屋根の全面葺き替えが完成。

平成16年(2004)、本堂内陣荘厳改修。

本堂入口と内陣の彫刻は飾磨の匠松本義広一門による。

明治40年本堂の格天井が完成。

本堂の扁額「立正」他は身延山第79代小泉日慈法主の揮毫による。



●妙見堂、山門、鐘楼堂

【妙見堂（番神堂）】

20坪 木造瓦葺平屋入母屋造

本堂の南にあり享保年代の建造で当時は番神堂といわれていた。



尚、文化7年（1810）の棟札が残っており、その頃に建て替えられたようである。
令和6年（2024）、妙見堂改修、冷暖房設備導入。

妙見堂内部の荘厳については、1．荘厳（2）妙見堂の項参照。

【山 門】3.25坪 檼平屋造

建造年代不明



【鐘楼堂】

昭和 55 年（1980）、檀家の寄進により鐘とともに再建された。（ページ 20 参照）



●客殿（旧庫裏）、奥座敷

【客殿】

1 4 0 坪 木造瓦葺二階入母屋造。昭和 5 年（1930）竣工。昭和 1 1 年（1936）には皇族賀陽宮恒憲親王が宿泊された。

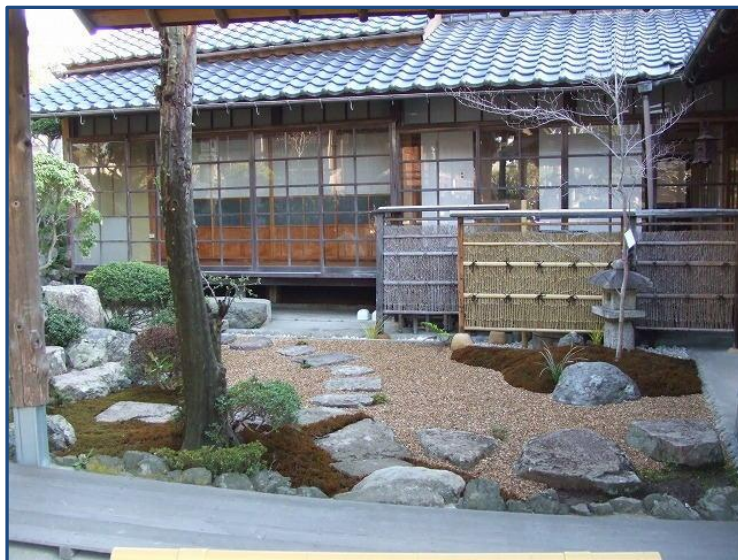
平成 1 7 年（2005）、宗務・檀信徒活動のための客殿と住職の住居となる庫裏を分離、会議室、厨房等の改修を行い、純粋な客殿として整備された。

一方、新庫裏は客殿の北側に分離して築造された。



【奥座敷】

10坪 客殿に接続する。木造瓦葺平屋切妻造。明治20年（1887）、村雲日栄大法尼ご宿泊の為建造。



●永代供養納骨堂「日光殿」

誰もが無理なく先祖や縁者の供養をすることができる永代供養のあり方を提案、宗派不問の永代供養納骨堂を開設した。

納骨堂は妙勝寺檀信徒、または入信された方の遺骨(焼骨)ならびに 遺骨土(遺骨が土にお帰りの場合)、または遺品を供養するための施設で、永代にわたって妙勝寺が納骨霊を供養する。生前予約も承り、また夫婦で同じ骨壺に収蔵することや、複数の先祖霊を一つの骨壺に収蔵することも可能とした。





●飛び地境内

(1) 篠の丸城址 (旧「奥の院」跡) : 2. 歴史「近代」の項参照 (頁 17)



奥の院妙見堂跡に建てられた
妙見大菩薩塔



篠の丸城守護と一族鎮魂碑



篠の丸城二の丸跡宝塔

(2) 「法蓮寺」跡 :



(旧) 法蓮寺跡宝塔類
(宍粟市山崎町片山)

宝 塔 類

(1) 日蓮聖人第五〇〇遠忌奉行宝塔（永代供養塔）

(2) 日蓮聖人第六〇〇遠忌奉行宝塔

(3) 日蓮聖人第七〇〇遠忌奉行宝塔



第五〇〇遠忌奉行宝塔
永代供養塔



第六〇〇遠忌奉行宝塔



第七〇〇遠忌奉行宝塔

(4) 三界万霊碑 徳川吉宗代に建立

(5) 山田丈太郎頌徳碑：山崎警察初代署長。公務殉死。毎年8月には恒例として宍粟警察署の供養がなされている。



**地域の安全安心へ宍粟署長ら
殉職の先達の
墓前で決意新た**

1881(明治14)年8月に26歳で殉職した龍野署山崎分署(現宍粟署)の初代署長、山田丈太郎の墓がある妙勝寺(宍粟市山崎町上寺)に、宍粟署の三浦保志署長や県警OBら11人が墓参りに訪れ、地域の安全安心を守る決意を新たにした。兵庫県警察史などによると、宍粟署は龍野署山崎分署として発足。山崎署に昇格後、2005年に宍粟署へ名称変更した。山田は旧大村藩(長崎県)士で、初代分署長に就いたという。81年8月10日、前年に管内で起きた殺人事件の容疑者を、山田は部下3人と追跡。山中に逃げようとした容疑者を取り押さえるようとしたが、短刀で胸を刺されて命を落としたという。翌82年、県内全警察官の寄付で石碑が建てられ、85年には妙勝寺に墓が完成した。

令和6年(2024)8月20日
神戸新聞【西播】記事

(村上晃宏)

初代龍野署山崎分署長、山田丈太郎の墓参りを
する三浦保志・宍粟署長(手前)ら。妙勝寺

た。今も宍粟署員や県警OBでつくる警友会宍粟支部の会員が、命日に合わせて墓参りしている。

10日に訪れ、墓前に手を合わせた三浦署長は「墓参りすると、体を張って県民や部下を守った初代署長の行動に身が引き締まる思いになる」と話した。

5. 供養・法要・祈願祈禱

●彼岸法要（春・秋）

常に変化し苦しみ多いこの世界を「此岸」というのに対し、対極にある苦しみを離れた平安な世界を「彼岸」という。 煩悩を離れて悟りの境地に至ろうとする仏教思想と、日本の伝統的な先祖供養の信仰が結びついて、祖先の霊を供養する行事となった。（日蓮宗ポータルサイトより）

（春と秋に行う理由）

太陽が真東からのぼって真西に沈むところから、そこに浄土があると信じ法要を行う説、昼と夜の長さが等しいことから仏教の中道（偏りをもたないこと）の思想に合致するので法要を行う説、天地の諸神が交代する日として法要を行う説など、諸説あり。（日蓮宗ポータルサイトより）

（彼岸の期間）毎年春分の日（春の彼岸の中日）、及び秋分の日（秋の彼岸の中日）を以て前後3日、合計7日間を彼岸という。

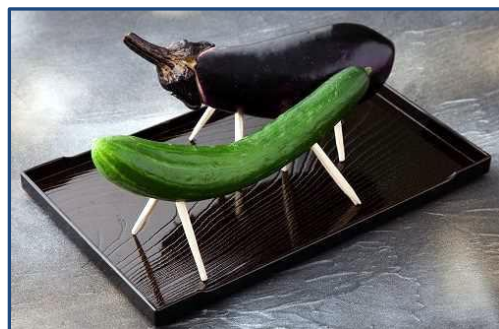
（妙勝寺の彼岸法要）春・秋共に彼岸の最終日（結岸）に春の彼岸法要、秋の彼岸法要を行くことにしている。

●お盆施餓鬼法要

「盂蘭盆」の省略形として一般に「お盆」と呼ばれ、祖先の霊を供養する行事。お盆の期間・時期には祖先の霊が子孫や家族の元に帰って来るとされ、盆の入り（8月13日夕刻）には迎え火を焚き祖先の霊をお迎えし、盆明け

（8月15日夕刻）には送り火を焚いて送るのが日蓮宗の一般的しきたり。以前は山崎でも初盆を迎えた故人の家族らが灯や造花などで飾られた精霊船を造り、故人の霊を乗せて揖保川で流す風景がよく見られた。

妙勝寺では8月17日にお盆施餓鬼法要を行う。



しょうろうま
精霊馬（ナスとキュウリ）

●お会式^{えしき}

日蓮聖人がお亡くなりになられた日（ご入滅の忌日）に営む法要。

妙勝寺では餅柱（菱形の模様の柱）をつくってお供えしている。以前は、計1122個のお会式餅を一つ一つ積み上げて餅柱を組み立てていたが、高所での重量物作業と檀家の高齢化に配慮し安全と効率化を図るため、令和5年より一体型の「餅柱」模型を制作し展示。別途3色のお会式餅を同等数お供えしてお会式法要を行っている。



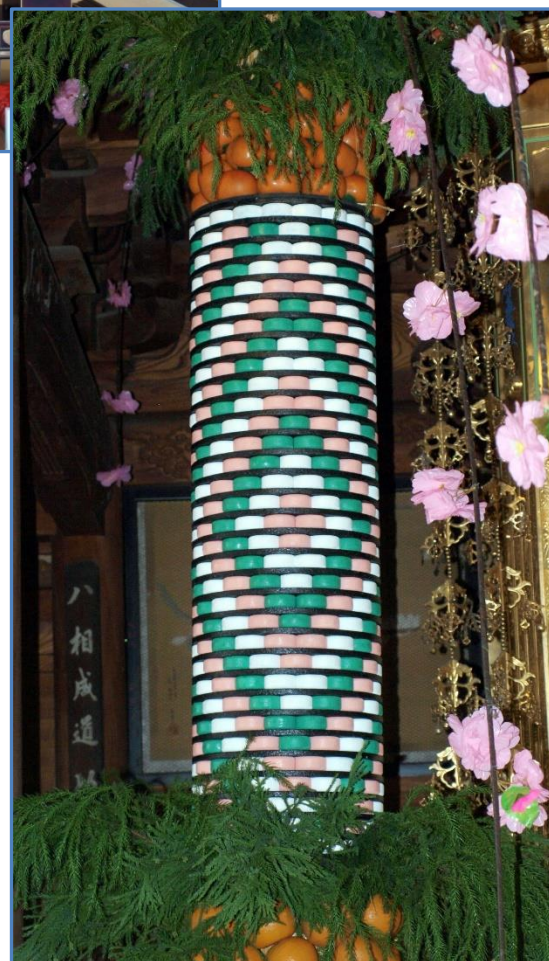
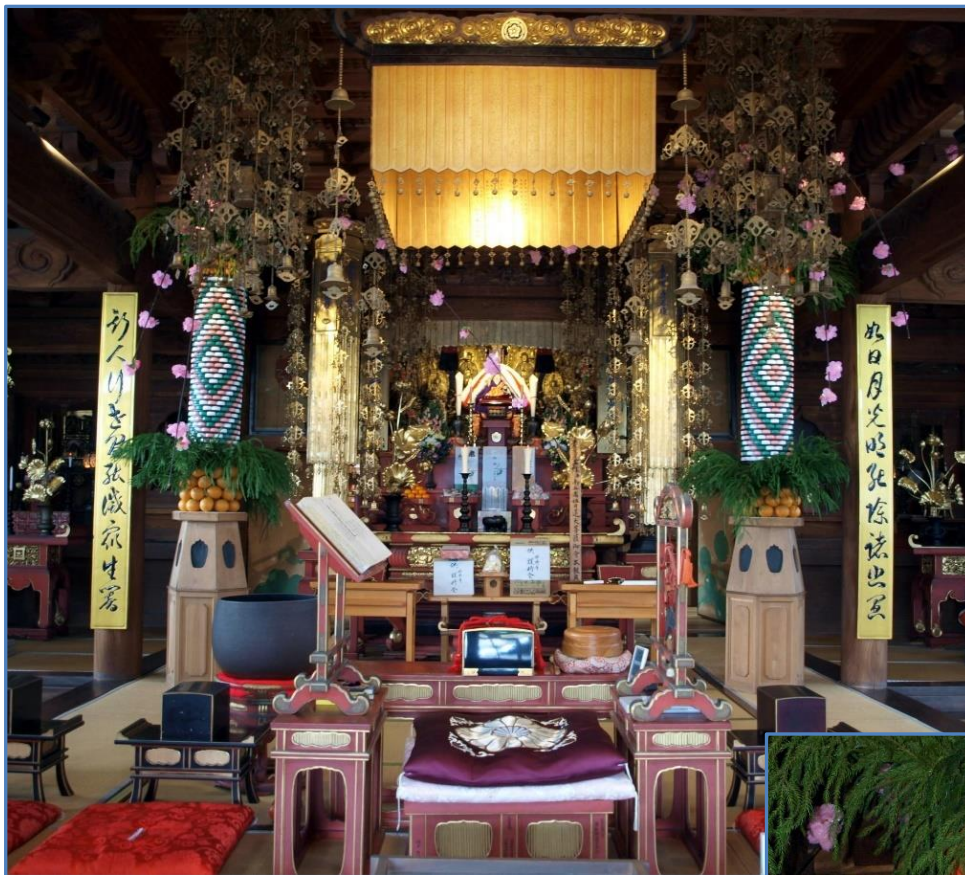
以前の餅柱
餅の準備



以前の餅柱組立



新しくなった餅柱（令和5年）



●星祭り

日蓮宗では、大聖人が龍口法難の際、「月のような光物（月天子）によって難を免れ、翌日に「明星のような大星が下って、梅の木にかかった」ということから、法華經の行者に、月や星の守護が得られると信仰している。星（九星・曜）に願いをかければ、必ず守護があるとしている。（日蓮宗新聞記事より）

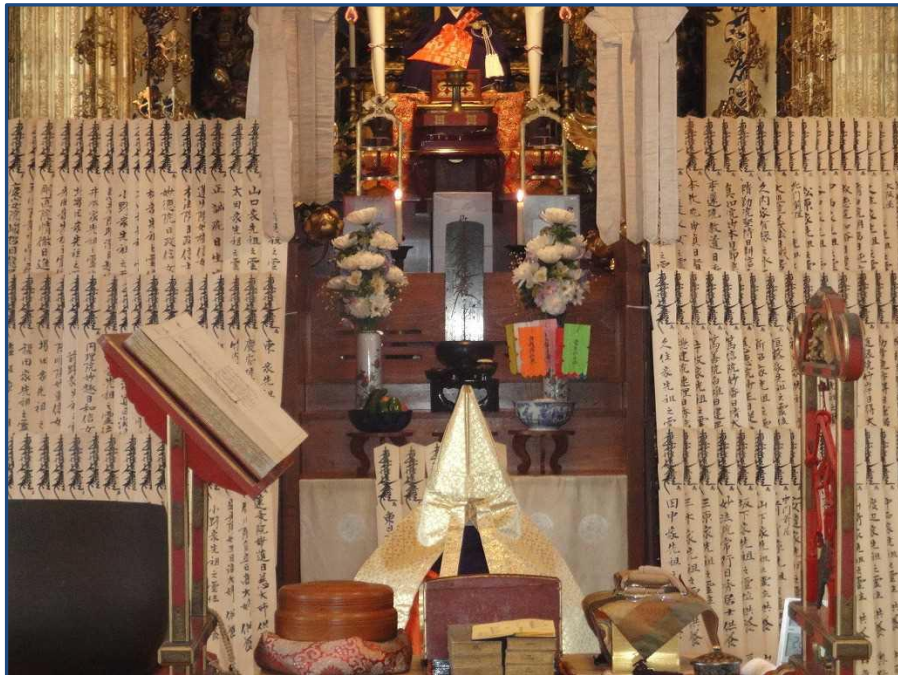
2月3日、妙見堂において御宝前を荘厳し供物を備え、日蓮宗大荒行堂にて相伝される宗法という作法を用いて星札と参詣の面々に加持祈禱を行う。



● 供養・祈願

先祖供養

春彼岸・お盆・秋彼岸施餓鬼法要での先祖供養。申し込まれたご先祖の戒名（法号）を塔婆に記し、法要の中で塔婆を読み上げ。祭壇に立てお祀りし、参拝者が焼香と水向供養を行う。



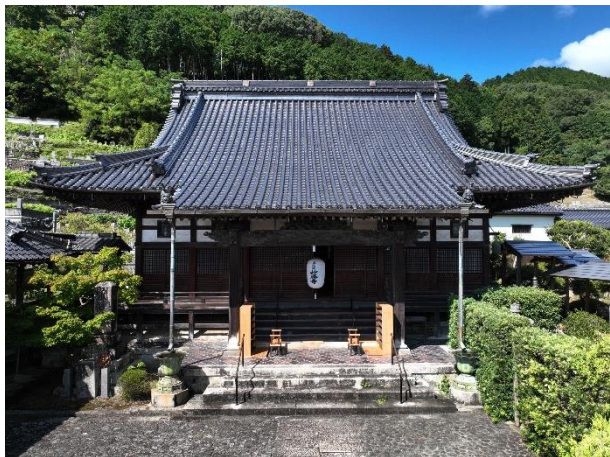
6. 妙勝寺 年表

西暦	元号	歴代	法号	妙勝寺出来事 宍粟・国内出来事
1528	享禄元年	初代	常在院日住上人	6月8日妙勝寺創建 鹿沢の地
1536	天分5年			天文法華の乱（延暦寺宗徒と法華宗徒対立）
1549	天分18年			ザビエル鹿児島へ
1553	天分22年			川中島の戦い
1555	弘治元年	2代	一乗院日祐上人	晋山
1580	天正8年			宇野氏滅亡 宍粟の中世終わる
1582	天正10年			本能寺の変
1584	天正12年			黒田官兵衛孝高、秀吉から「宍粟郡一職」与えられる
1587	天正15年			官兵衛、豊前12万石へ 宍粟は龍野城主木下勝俊の支配下に
1595	文禄4年	3代	本成院日寿上人	晋山
1600	慶長5年			宍粟は池田輝政の領有となる
1615	元和元年			大坂夏の陣（豊臣滅亡） 池田輝澄が宍粟を領有、宍粟藩成立
1631	寛永8年			佐用郡2万5千石加増、宍粟藩6万3千石へ
1638	寛永15年	4代	円珠院日調上人	晋山
1640	寛永17年			輝澄改易 松井康映、宍粟藩入封 寺請制度（檀家制度）
1649	慶安2年			宍粟は一旦幕府領、その後、池田恒元入封（3万石） 明暦の大火（江戸城類焼）
1671	寛文11年			宍粟藩、池田恒元没、政周が藩主
1672	寛文12年	5代	本珠院日栄上人	晋山
1677	延宝5年			宍粟藩、池田政周没、恒行が藩主のち没
1679	延宝7年			宍粟藩、大和国郡山より本多忠英入封（1万石） 以降明治維新まで本多藩
1680	延宝8年			山崎大火による類焼にて消失
1681	延宝9年			上寺の現在地を賜り再建
1695	元禄8年	6代	恵林院日還上人	晋山 薦沢・法蓮寺建立（妙勝寺の隠居寺）
1702	元禄15年			赤穂浪士討ち入り
1703	元禄16年	7代	恕長院日周上人	晋山 本堂改修
1709	宝永6年	8代	松寿院日達上人	晋山
1717	享保2年	9代	湛浄院日浩上人	晋山 番神堂（現妙見堂）・鐘楼堂建立
1722	享保7年	10代	恵運院日厳上人	晋山 寺運興隆中興上人
1728	享保13年	11代	守玄院日応上人	晋山
1740	元文5年	12代	観行院日透上人	晋山 平福・了清寺3世
1753	宝暦3年	13代	唯常院日賢上人	晋山

西暦	元号	歴代	法号	妙勝寺出来事 栄栗・国内・世界出来事
1756	宝暦6年	14代	大玄院日孝上人	晋山 庫裏新築
1760	宝暦10年	15代	長久院日能上人	中寺（香寺）・醍醐寺ヨリ晋山
		16代	本領院日栄上人	記録不明
		17代	止静院日慈上人	晋山年号不明
1789	寛政元年	18代	行善院日静上人	晋山 寛政の改革（松平定信）
1795	寛政7年	19代	観明院日観上人	晋山
1816	文化13年	20代	恵妙院日秀上人	晋山
1818	文政元年	21代	寿量院日文上人	晋山
1830	文政13年	22代	沾妙院日道上人	晋山
1835	天保6年	23代	温譲院日慈上人	晋山 この頃天保の大飢饉
1840	天保10年			アヘン戦争
1841	天保11年			天保の改革（水野忠邦）
1846	弘化3年	24代	文暁院日慎上人	晋山
1852	嘉永5年	25代	励妙院日慈上人	11月23日晋山 河井恵忍
1853	嘉永6年			ペリー浦賀来校
1854	安政元年			妙勝寺緋金欄許可
1860	万延元年	26代	要妙院日解上人	3月晋山 塚田恵温
1868	明治元年			明治維新 慶応4年をもって明治と改元
1872	明治5年			本堂改修発願 改修工事中火災により中断 妙勝寺緋金席寺院となる
1887	明治20年			村雲日栄大法尼 来寺 奥座敷建造
1892	明治25年	27代	円妙院日観上人	晋山 太田恵静 本堂再起工
1908	明治41年			2月10日 本堂落成 5月20日～23日 本堂開堂供養
1912	大正元年			明治45年7月30日 明治天皇崩御 大正と改元
1920	大正9年	28代	慈妙院日孝上人	晋山 志津木貫誠 庫裏改修計画発願
1926	昭和元年			大正15年12月25日 大正天皇崩御 昭和と改元
1929	昭和4年	29代	智恬院日照上人	晋山 大岩文雄 上郡・大乘寺 山崎高下・法傳寺歴代
1930	昭和5年			庫裏（現客殿）完成
1931	昭和6年			法蓮寺、兵庫県社町に寺号を移転
1936	昭和11年			賀陽宮恒憲親王 来寺 奥座敷宿泊
1937	昭和12年			5月23日 一本松・妙見堂（笹の丸開運殿）落成式
1944	昭和19年			梵鐘を戦争物資として供出（鐘楼堂解体・礎石のみ）
1945	昭和20年			8月15日 第二次世界大戦終戦
1947	昭和22年			5月 一本松に三大誓願石塔建立（坊守 前田りつ発願）
1964	昭和39年			東京オリンピック

西暦	元号	歴代	法号	妙勝寺出来事 栄粟・国内・世界出来事
1972	昭和47年	30代	一妙院日祥上人	晋山（法灯継承式） 大岩祥峰
1980	昭和55年			7月 鐘楼堂(梵鐘) 建立 東京・日野隆司・昌子寄贈
1988	昭和61年			本堂・妙見堂 屋根替え
1989	平成元年			昭和64年1月7日 昭和天皇崩御 平成となる。
1995	平成7年			1月17日 阪神大震災
2003	平成15年			妙勝寺改修事業発願
2004	平成16年	31代	三千院日清上人	11月21日 晋山（法灯継承式） 大岩清人 「花まつり」始まる。2019まで15回実施
2007	平成19年			4月29日（日） 新庫裏落慶法要・稚児行列
2010	平成22年			（旧）法蓮寺、お堂を解体し飛び地境内に
2011	平成23年			3月11日 東日本大震災
2012	平成24年			妙勝寺団体参拝 「身延山参拝と江の島・鎌倉の旅」（3/31～4/2）
2014	平成26年			妙勝寺団体参拝 「身延山・東伊豆団参」（4/5～4/7） 妙勝寺墓地測量調査
2015	平成27年			1月18日 永代供養納骨堂「日光殿」完成
2019	令和元年			5月1日より改元・令和（平成天皇 隠居 上皇となる） 創建500年事業発願 本堂エアコン設置・客殿屋根修理・本堂と客殿樋修理
2020	令和2年			境内新トイレと客殿トイレ改修 新型コロナ禍により行動が大きく制限される（緊急事態宣言等）
2021	令和3年			「篠の丸城」御城印作成 新型コロナ禍（緊急事態宣言2回目、3回目、4回目）
2022	令和4年			境内庭整備（バラス敷）
2023	令和5年	32代	顕徳院日慈上人	3月31日晋山 松田龍顕（姫路市蓮正結社より） 新型コロナ、5類に変更、行動元に戻る 本堂石段手すり・下足箱設置 鐘楼堂手すり設置 「日光殿」渡り屋根を設置
2024	令和6年			妙見堂改修、冷暖房設備導入 「七面大明神」を修復 10月20日 創建500年落慶法要 32世法灯継承式・稚児行列

7. 妙勝寺上空「空中散歩」





あ と が き

妙勝寺 護持会長 前 野 良 造

妙勝寺が創建から500年を迎えるにあたり、その事業の一環として「創建五百年」記念誌を発行することとなりました。500年という期間は我々の日常生活においては実感することがほとんどできないような長い歴史上の期間となります。ただ、その長い期間、歴代住職のもと私たちの祖先が信仰し、護持し、今も祖先が永遠に眠る妙勝寺を知ることは我々のルーツ、先祖たちの人生、生きざまを感じ、今ある自分の生にも思いを馳せる機会になるのではないのでしょうか。

妙勝寺が創建されて初めの約150年間、今の所在地ではなく近世山崎城（鹿沢城）搦手門の面前に広大な敷地で所在していたようです。1680年の大火の類焼に会い、翌年に現在地に再建されました。焼失しているため創建から江戸前期の記録等がなく具体的な妙勝寺の動きを知ることはできませんが、替りに当時の宍粟・山崎の大きな動きを記しました。中世から近世前半の激動の山崎の様子を思い、その中心地にあった妙勝寺とそこに所縁ある人々の生活や地域の発展にも寄与したであろう功績を想像していただけたらと思います。

記念誌をまとめるにあたり、どうしても記憶と資料の豊富な近年の出来事に気を取られますが、500年という長い歴史の中で貴重な記録として残っていることと、近年の出来事も今後長く語られ、受け継がれてゆくかもしれないことを思って厳選して記しました。まだまだ皆様の心の中には忘れがたい思い出が多々あるかと思います。そのような時、ぜひ記念誌の巻末の自由記述欄や別冊にでも記していただければ、記念誌もより意義をなすものと思います。

なお本文には、31世三千院日清上人が記された多くの寺院記録の内容を編集して収録させていただきました。

篠の丸城跡の東山麓に広がる妙勝寺境内を、上空から撮った写真を第7章に数点掲載しました。妙勝寺の上空「空中散歩」の雰囲気을少しでもお楽しみいただければと思います。

表紙の題字は福田晴美様に揮毫いただきました。

合わせて、貴重な歴史資料を提供いただいた岡山大学附属図書館殿、宍粟市教育委員会殿、及び掲載写真・資料・情報を提供いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和6年10月20日

This image shows a single page of white paper with horizontal blue ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

Handwriting practice lines on page 50. The page contains 20 sets of horizontal dashed lines for writing practice, each set consisting of three lines (top, middle, and bottom) to guide letter height and placement. The lines are evenly spaced and cover the majority of the page area.

This image shows a single page of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

法光山 妙 勝 寺
創建五百年 記念誌

令和 6 年（2024）10 月 20 日

発行元：法光山妙勝寺
兵庫県宍粟市山崎町上寺 168 番地

表紙題字：福田晴美